



うおっち Watch

発行:湖西中学校区保幼小中+高一貫教育推進委員会 担当:地域連携部会

<タイトルの「うおっち」には15年間の育ちを「地域でWatch(見つめる)」という意味を込めています。>

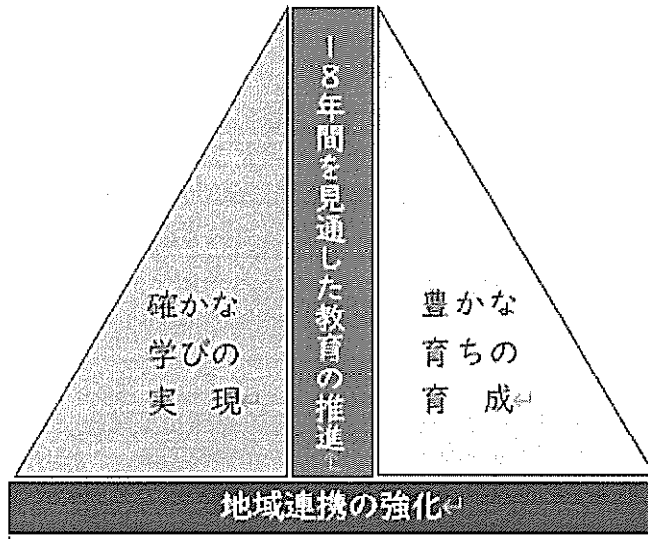
縦をつなぐ「小中一貫教育」と横をつなぐ「地域とともにある学校づくり」、そして、未来につなぐ「キャリア教育」は、高島市の教育の本道と位置付けられています。

このことを受け、湖西中学校区5つの校園は、昨年度から「つながりの中でたくましく学ぶ子どもの育成」をめざし、地元の高等学校を含めたつながりとして子どもたちの成長をとらえ、発達段階と学びの連続性を重視した取組を進めております。その中で、異校種の教職員が協働して授業・保育を創造し、子どもたちが、異校種の教員による授業を受ける(小6が中学校教員の、中2・中3が高校教員の)ことなどを通して、進学や進級への不安を解消し、意欲を高めることにつなげました。また、園・小・中・高の教員が一堂に会して、新旭の子どもたちの「育ち」と「学び」における課題等について協議し、解決に向けて実践を積み重ねてきました。

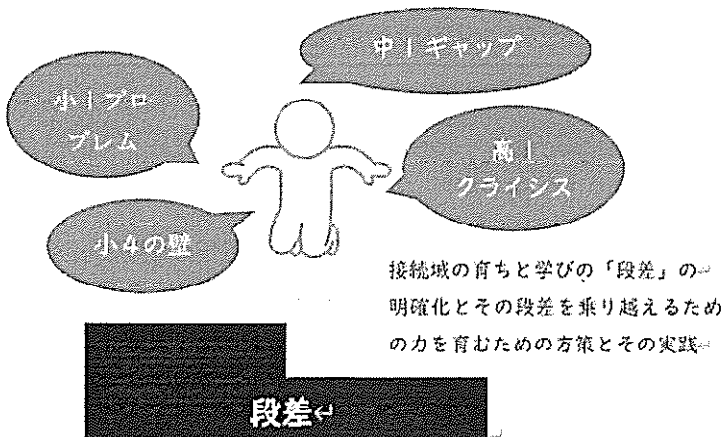
これまでから湖西中学校区各校園は、地域と深く関わりながら教育活動を展開してまいりました。今年度も、保護者・地域の皆さまとつながり響き合いながら、教育活動のさらなる充実を図り、適切な指導支援により子どもたちを導いていきたいと考えております。

保護者、地域の皆さま方には、引き続きご理解ご支援をいただきますようよろしくお願いいたします。

湖西中学校区保幼小中+高一貫教育推進委員長 村田秀俊(湖西中学校)



▲ 地域連携を土台とした18年間を見通した学びと育ち
令和5年度 取り組みの重点
 発達段階における接続期の『段差』とその課題 ▼



令和5年度

湖西中学校区保幼小中 + 高一貫教育【概要】

[湖西中学校区の教育目標]

つながりの中でたくましく学ぶ
子どもの育成

18歳までを見通した保幼小中+高一貫教育を、今年度も実践していきます。

「保幼小中高が一体となって子どもたちの『確かな学び』の実現と『豊かな育ち』の育成をどのように保証していくか」という問いを立て、保育や教育活動を行っていきます。

特に「小1プロブレム」「小4の壁」「中1ギャップ」そして「高1クライシス」とよばれる接続期の課題を明らかにし、その課題(「段差」)を乗り越える力を子どもたちの中に育てていくことを、最大の目標にしています。

教育目標にある「つながり」とは、子どもたち一人ひとりの成長のつながりでもあると考えています。

保幼小部会

昨年度まで取り組んできた保育、教育内容の相互理解をさらに深めていけるよう、今年度は子ども同士の交流活動の充実と、保育者と教師が互いの保育や授業支援を行い、実際の体験を通して、子どもたちの学びの姿を知り感じていきたいと考えています。

そこから、園では学びの土台である幼児期の生活や遊びが小学校以降の学習にどのようにつながっているのかを見通した保育実践に取り組み、一方小学校では幼児期の学びの環境や子どもたちの姿を踏まえ、学習環境や指導方法の工夫に取り組んでいきます。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」が到達目標ではなく、保育活動全体を通して資質・能力が育まれつつある姿としての共通理解を深めながら、園から小学校へ滑らかに接続し、つながっていくよう取り組んでいきたいと考えています。

小中部会

6年間という最も長い学校生活を送る場所、それが小学校です。入学時と卒業時とを比べると身長が約37cm伸び、体重が約24kg増えています(全国平均より)。この長い年月で変化するのは外見だけではありません。たくさんのことを学習し、たくさんの経験から心を耕します。ただ、伸びることばかりではありません。低学年の頃に身に付けた学習規律が崩れたり、物事をあきらめやすくなったり、予期しなかったのに学校を休みがちになったり…。そんな状況も少なくありません。そういった現実を受けとめ、どんな手立てをすれば防げるのか、子どもたちがより楽しくいきいきと学校生活を送るためにできることは何か、その方法を探るべく、校園種の垣根を超えて研究に取り組めます。

小中中部会

本年度は、小6と中1の接続期における「段差」を乗り越えさせるための力を育むため、2グループ編成により研究を進めます。まず具体的な「段差」とは、①学習活動(教科担任制、授業の進め方、自主的な学びなど)②環境(自治的な活動の活性化、部活動などの縦社会、上下関係など)③人間関係(新しい集団でのストレス・不安など)と分析しています。そして、これらの「段差」を乗り越える力を付けることで、子どもたちは、生きがいややりがいを見つけ、笑顔で登校できると考えます。

小6グループでは、中学校から小6への出前授業や中学校での授業体験を軸とした小中の学習面での交流を行い、中1グループでは、小学校からの出前授業や新たな取組として、中1による人権劇を企画しています。子どもたちが、学びを深め、人とつながり、これからの変化の激しい社会をたくましく生き抜くことができるよう願いながら、特色ある活動を展開したいと思えます。

中高部会

ここ数年、湖西中学校をはじめ、市内中学校の卒業生の進路の多様化が進み、3割を超える生徒が市外の高等学校に進学しています。このような状況を踏まえ、地元高等学校では、「遠隔地の高校を選択しなくても進路実現ができる」「将来地域で活躍できる人を育てる」「手厚い指導を実践する」といった魅力ある学校づくりを進めておられます。

今年度、中高部会では、中学生やその保護者の皆さまが、地元高等学校が実践されていることに魅力を感じ、自らのキャリア形成を考え、そして、目標をもって進路選択をするための一助とするため、①高校の先生による中学2年生への出前授業 ②高校生(湖西中学校卒業生)とのパネルディスカッション ③湖西中学校卒業生の授業参観や中高の教員の懇談等(中学3年生への情報提供) などに取り組めます。

こども園から高等学校までの教職員がつながり、18年間の学びをつなぐこと等を通して、子どもたちが、自己肯定感を高めつつ、成長に合わせたキャリア形成をしていけるよう導いてまいりたいと考えています。

地域連携部会

地域連携部会では、情報収集・情報発信を通して地域と連携し、子どもたちの「確かな学びの実現」と「豊かな育ちの育成」を支える土台となっていけるように、次の活動に力を入れていきます。

- ① 広報誌「うおっち」の発行・・・小中一貫教育の各部会の取組や、各校園での活動などを発信します。
- ② 新旭地区行事カレンダーの作成・・・保護者の皆さまや地域の皆さまに、各校園での取組を把握していただくために、行事カレンダーを作成し、配布します。
- ③ 学校地域協働活動のカリキュラムをリンクさせる・・・各校園で作成している「学校地域協働活動のカリキュラム」を持ち寄り、各校園のつながりを意識した取組にしたり、ボランティアの皆さまの支援を受けられる場面を模索したりしながら、カリキュラムのブラッシュアップを図ります。